



今月の農家さん

成果が見える農業

野洲市五之里
川崎 権蔵さん (60才)



専業農家として12haの田畑を手掛ける川崎さん。3年前の退職をきっかけに、本格的に野菜作りを始め、9月は主にキャベツを育てています。今年は4品種を約30aずつ作付けしました。

キャベツにとって大切な水の管理には、FOEASと呼ばれる地下水位を調節する装置を使っていますが、それでも心配な川崎さんは、土の様子を見ながら追加の水やりをしたり、手作業で雑草の処理をしたりとキャベツに愛情を

注いでいます。

「野菜の世話をするのは体力も使いますし、時間もかかります。でも、その分の仕事の成果が見えるのでやり甲斐があります。それに、苦労して育てた野菜を収穫する喜びは何にも代えられません」と川崎さんは笑顔で話します。

最後に川崎さんは「愛情を込めてコツコツと世話をすれば、きっと野菜は成果を見せてくれます」と野菜作りに挑戦する方にメッセージを送ります。

営農情報

稲刈り跡の雑草防除について

稲刈りが終わり、田んぼの世話が一段落する時期ですが、実はこのタイミングが雑草の防除に適しています。

特に、畦畔からほふく茎をのばして侵入するキシユウスズメノヒエやアシカキがはびこった時や、難防除雑草のクログワイ、ホタルイ、ミズガヤツリなどが20cm程度に再成長した時は、『ラウンドアップマックスロード』を散布すると効果的です。

ただし『ラウンドアップマックスロード』は、薬液を雑草の葉や茎に直接かける事で効果を発揮するため、雑草がワラなどに隠れていると効果が薄れますのでご注意ください。

また、冬になり雑草の生育が停滞すると、効果が落ちますので11月頃までに散布しましょう。

『ラウンドアップマックスロード』はアミノ酸系除草剤です。土に落ちた成分は微生物が分解して、水や炭酸ガスになります。土に成分が残る事はないので、散布した翌日に耕起や播種、定植をしても問題はありません。

ただし、タマネギは耕起5日前

までに散布してください。

耕起した後も、雑草は土中で生き残る事があるので、耕起する前に散布を行い、雑草を根まで枯らしましょう。

※水稲刈跡に『ラウンドアップマックスロード』を利用した場合、次年度の農薬カウントに1成分プラスとなります。

エコ富士米(環境こだわり米)の作付者は、ご注意ください。



土に落ちた成分

水

アミノ酸

炭酸ガス

リン酸塩

天然生成物

微生物

分解

ラウンドアップマックスロード

※イメージ